

一般財団法人 大阪デザインセンター
平成26年度 事業報告

2014. 6. 24

【総括】

最近の政府の景気判断としては、「企業部門に改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続いている」とされているが、円安、原油安が正負、両面に現れており、複雑な経済状況となっている。

その中で、中小零細企業には景気回復の波及効果は及んでおらず、デザイン界においてもまだ打開の兆しが見えない状況が続いている。

当財団は、平成26年4月1日付で一般財団法人化への移行を完了し、平成26年度事業は、一般財団法人化後の初めての事業年度となった。

収益性を目指して、新たなテーマ、注目を集めそうな事業に種々取り組んだが、参加者集客に苦戦する中で、「デザイン・シンキング」事業は大きな反響があり、27年度においても拡大して実施を予定している。

継続事業の中では、

中堅デザイナーのソリューション能力向上を目指す「デザインビジネス塾 [co-design]」、企業の管理職クラスがデザインを経営資源として活用できる能力を身につけて貰う「デザインマネジメント研究会」は、目標どおりの成果を収めたが、いずれも、(公財)JKAからの補助年限が切れたので、27年度では、統合してさらに高度なものを目指して、「デザインプロデューサー育成講座」として実施する予定である。

なお、この育成講座は、「デザイン・シンキング習得講座、実践ワークショップ」、「デザイナー・企画者のための販路・市場講座」と共に、シリーズとして、「事業構想デザイン」を身に付ける人材育成を目指したレベルの高いものとする予定である。

デザインを学ぶ学生のための「デザイン就業支援事業」は応募者も多く、十分成果があったので、27年度からは、JKAから、「デザイン・インターンシップ」事業として補助をいただいて実施する。

シンポジウムについては、デザイナー・専門職向けに、「マーケットに響くデザイン」を訴え、大きな反響を得た。27年度からは、JKAに対して、「デザイン・シンポジウム」事業として一般公益の補助をいただいて実施する。

当財団の独自事業として「デザインビジネスプロモーションセンターの運営」事業を継続実施しており、堅調なニーズがある。

一方、大阪商工会議所との連携事業として、「OSAKA STYLING EXPO 2014」に参画したほか、大阪市との連携事業として、「デザインマルシェ」ほかに取り組んだ。大阪府との連携

事業については、実施内容を再検討することとした。

情報発信機能強化として、当財団ホームページにおいて、大阪の各種団体からの依頼を受けて、デザイン情報を広範に紹介し、また、当財団自身の事業のPRのために、財団のfacebook を開設し、メールマガジンも活用して、タイムリーな情報発信に努めた。

「大阪デザイン振興プラザの運営」においては、ATC 内のデザインオフィス、ライブラリー等の施設受託管理とODPセミナーの毎月開催などの企画運営を行ったが、27年度からは、受託廃止となっている。

新規事業としては、

企業の強みを見える化し、潜在的市場ニーズを掘り起こす商品コンセプトづくり訓練を目指した、「デザイン・シンキング実践講座」を大阪府から受託し、2 シリーズ実施して、企業の企画開発者を中心に多くの参加者を得た。

このほか、「シーズを活かした新商品デザインプロジェクト」として、「ものづくりのための人間工学」を全 10 回、モノづくりから販売までの事業者向け「製品安全対策カンファレンス」を全5回実施した。

また、デザイナー、企業者は、海外販路に目が向いているので、世界の三大展示会である、「ニューヨーク・ナウ」の視察ツアーを実施して、現地のディストリビューターから商品づくりのアドバイスをもらった。

デザイナーと企業との交流の場として、「SEMBAデザインサロン」を 10 月に開設し、毎週、金曜日にミニ・セミナーを行っており、好評を得ている。

財務状況については、新規事業で支出が増えたが、経費減に努めたほか、円安による外国債の利息増、資産評価額増等により、差し引きは大きく改善した。

財源的には、公益目的支出計画に従って保有有価証券を取り崩して事業費にあてた。ビジネス・マッチング、デザイン人材育成事業等の継続分野において、概ね計画通り事業を実施したが、大阪府との連携事業がなかったため、その分が取崩し計画よりも少額となっている。

I. 総務に関する報告

1. 理事会・評議員会の開催

(1) 第1回理事会の開催

- ・ 日時 2014 年6月10日(水)午後2時～3時50分
- ・ 場所 ATC 大阪デザイン振興プラザ 多目的ルーム

- ・ 議案 第1号議案 (財)大阪デザインセンターの平成25年度実施事業報告
- 第2号議案 財団法人大阪デザインセンターの平成25年度決算(案)、
監事監査報告
- 第3号議案 公益目的財産額の確定
- 第4号議案 定時評議員会の招集
- 第5号議案 平成26年度(公財)JKAの補助事業の実施
- 第6号議案 平成26年度(一財)大阪デザインセンター補正予算(案)

(2) 第1回評議員会の開催

- ・ 日時 2014年6月25日(水)午後1時39分～3時12分
- ・ 場所 ATC 大阪デザイン振興プラザ 多目的ルーム
- ・ 議案 第1号議案 財団法人大阪デザインセンターの平成25年度決算の承認、
公益目的財産額の確定
- 第2号議案 理事及び監事の選任

(3) 第2回理事会の開催

- ・ 日時 2015年3月17日(火)午後1時～3時
- ・ 場所 ATC 大阪デザイン振興プラザ 多目的ルーム
- ・ 議案 第1号議案 中長期計画フレーム
- 第2号議案 平成27年度事業計画収支予算
- 第3号議案 定款の変更
- 第4号議案 諸規程の制定
- 第5号議案 理事の辞任報告と選任
- 第6号議案 評議員会の招集
- 第7号議案 (財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会委員の委嘱
- 第8号議案 平成26年度事業第二次補正収支予算

(4) 第2回評議員会の開催

- ・ 日時 2015年3月27日(金)午後1時17分～3時30分
- ・ 場所 ATC 大阪デザイン振興プラザ 多目的ルーム
- ・ 議案 第1号議案 定款の変更
- 第2号議案 役員報酬等規程
- 第3号議案 理事の選任

2. (財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会の開催

(1) 平成26年度第1回委員会の開催

- ・ 日時 2015年2月24日(火)午後3時～4時
- ・ 場所 (財)大阪デザインセンター会議室
- ・ 協議事項
 - (1) (財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会委員長の選出
 - (2) JDF継承資産の取崩し方針について
JDF継承資産の取崩し、利息活用 年次計画について
 - (3) 理事会に提出する「(財)JDF継承資産を活用した平成27年度の事業計画及び収支予算(案)」の作成について
 - (4) 平成26年度JDF継承資産事業 第二次補正予算案
 - (5) 平成27年度(財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会委員の委嘱

II. 事業に関する報告

実施事業会計【JDF継承資産部門】

1. 人材育成事業

- (1) デザインビジネス塾 co-design (第5期開講) ((公財)JKA補助事業)
(事業費 3,255千円、参加料 1,970千円、JKA補助金 1,649千円)

若手デザイナー、企画開発者等を対象に、デザインを通して問題の発見・課題の解決が図れる人材、新しいビジネスを創造できる人材を育成する。

そのため、大阪デザインセンターにデザインビジネス塾を設け、在阪のトップデザイナー4氏にデザインビジネス塾の塾長を委嘱し、総合的なデザイン研修事業を委託し、実践的で広範囲なデザイン実務やそれぞれの塾長の卓越した「ソリューションの技法」を塾生に直接伝授した。

また、講義やディスカッション、塾長ワークショップを通して、クライアントからの要請や周囲の状況に即して、適切に課題を抽出してソリューションに至るまとめ方を、実践的にアドバイスして、自社内では困難な高度な知識の習得を図り、企業が求めるエキスパートデザイナーを養成した。

1年に20名ずつ、5カ年で100名を養成する計画で、26年度は5年目、最終年度に当たるので、商流の中でデザイン手法を活かしてビジネスを構想できる能力の獲

得をも目指した。

【スケジュール】 平成 26 年 4 月中にカリキュラム作成。 5 月初旬に募集パンフレット作成・配布。 6 月 17 日に塾生の募集締切、20 名の塾生選定。 6 月 24 日入塾式、7～9 月まで塾長講義とディスカッションを 4 回繰り返し、塾生自らが、研究課題を設定して、塾長ワークショップで討議した。ワークショップは 4 か月に延ばして、実戦的な指導のもと、具体的な成果発表物の質を高めた。

1 月 17 日の成果報告会には、行政機関や派遣元企業などを招き、講評をして貰った。場所は、昨年に引き続き「うめきた」の Knowledge Capital の中で行った。

修了者 20 名に、「ODC デザインビジネス塾修了証書」を授与した。

修了生を ODC 人材 B A N K に登録するとともに、大阪・関西のデザイン情報の発信とデザイナー集団の活性化に取り組む。

第 1～5 期修了生を含めて塾長や修了生の交流の場を 4 月 5 日に持った。

- ・ 第 5 期テーマ 「デザインビジネスの構想力」
- ・ 開催期間 2014 年 6 月 24 日(火)～1 月 17 日(土) 全 20 日間
- ・ 会場 「うめきた」大阪ガス(株)都市魅力研究室
(成果発表会は ATC 多目的ルーム)
- ・ 修了生 20 名(受講者 20 名)
- ・ 総代塾長 坂下 清 氏 ODC 前理事長
- ・ 塾頭 越田 英喜氏 ODC 理事長
- ・ 塾長 間宮 吉彦氏 空間デザイナー
羽場 一郎氏 プロダクトデザイナー
山納 洋氏 プロデューサー
吉田 順年氏 クリエイティブディレクター
- ・ 外部講師 稲葉 修氏 株式会社広栄社 取締役会長

【各塾の成果発表のテーマ】

間宮塾 グリーンマスクプロジェクト

羽場塾 アートとデザイン

山納塾 柏原ぶどう産業の六次産業化とデザイン

吉田塾 社会問題をデザイン的アプローチで解決すること

(2) デザインマネジメント研究会・フォーラム ((公財)JKA補助事業)

(事業費 1,117 千円、参加料 326 千円、JKA補助金 422 千円)

平成 16 年度、平成 18 年度、平成 21 年度、平成 22～25 年度の 7 回にわたり、

「デザインマネジメント研究会」を実施し、企業経営の中で、デザインを戦略的に活用し、デザイン経営の実践を図る人材を育成してきた。

今年度も、経営資源としてのデザインを効果的に機能させるデザインマネジメントについて、各分野で活躍されているデザイン管理者、中小企業経営者、デザイナー等の参画により、問題解決のための研究を深めた。

なお、経営者幹部、デザインマネジャーなどを対象に、その成果を今後の企業活動に活かすため、前年度研究会参加メンバーによるフォーラムも併せて開催した。

また、受講者に対し、「ODC デザインマネジメント研究会修了証」を授与した。

- ・ 開催期間 2014年10月9日(木)～11月27日(木) (8回)
- ・ 会場 大阪産業創造館 会議室
- ・ 受講者 9名
- ・ 塾長 坂下 清氏 大阪デザインセンター アドバイザー
- ・ 外部講師 明上 誠治氏 前(株)シマノ デザイン室参与
竹川 智子氏 (株)フラン 代表取締役
- ・ デザインマネジメントフォーラム(成果報告会) 2014年11月13日(木) 開催

(3) 学生のためのデザイン就職支援事業 ((公財)JKA補助事業)

(事業費 3,120 千円、JKA補助金 1,562 千円)

産業デザイン振興は、中小機械工業等にとって欠かすことのできないものであり、産業界では付加価値の高い商品開発への取組が求められ、デザインを活用する企業が多くなっている。しかし、それを支える高度なスキルを持つデザイナーは必ずしも多くない。

当財団では、将来のものづくりを支える優秀なデザイナーを育成するため、デザイナーを志望する学生を対象に、デザイナーとしての知識や技術の習得と社会人としての職業観を醸成することを目的に、平成 14 年度から大阪デザイン振興プラザ・デザイン工房会等の協力を得て学生のためのインターンシップ支援事業を実施してきた。平成 19 年度からは、民間からの補助金と大阪市の分担事業として受入れ人数や実習期間の拡大など事業充実に努めてきたが、平成 22 年度からは、民間団体の単独補助事業として実施しており、平成 24 年度からは「デザイン就職支援事業」として、(公財)JKA の補助を受けて学生のための就業体験実習を行っている。

実施にあたり、受入事務所の募集については、大阪デザイン振興プラザ・デザイン工房会と、プロダクト系を中心に府下のデザイン事務所に呼びかけた結果、24 社からの応募があった。また、学生募集対象校は、デザイン学科を有する専門学校、短期大学、大学、計 50 校に募集要項を配布した。

募集に当たっては、本人の意向を生かすため、実習先を第 2 希望まで聴取した。

20名の受け入れ可能人数に対し、64名(14校)もの応募があった。実習生の選考に際しては、実行委員会でプロダクト系を重視しつつ、希望者の多い受入事務所を優先して選定し、応募者の応募動機や熱意などを勘案し、慎重に20名を選考した。

実習期間は14日間とし、昨年度よりも2日間長くなった。実習終了後、実習で得た内容等について感想文の形で提出を求めた。また、受入事務所についても、実習生の成長を評価する目的で、デザインスキル等について報告をいただいた。実習終了後、実習生と受入事務所の方々に集まっていたいただき、成果等を語り合う「座談会」を開催した。当財団では、このデザイン就職支援事業が機械工業の振興と発展に寄与できるデザイン人材育成につながるものと確信し、内容充実に努めた。

- ・実習期間 2014年7月14日(月)～9月30日(火)のうち14日間
- ・実習場所 大阪デザイン振興プラザ・デザイン工房内デザイン事務所(大阪府住之江区南港北2-1-10 ATCビル ITM棟10階)及び大阪市内・近郊のデザイン事務所
- ・主催 一般財団法人大阪デザインセンター
- ・事業補助 公益財団法人JKA
- ・協力 大阪デザイン振興プラザ デザイン工房会など

(4) ユーザーと共に考えるデザイン展

(事業費 815千円、ATC補助金 200千円)

様々なジャンルの絵本を集め、世界のデザイン発想を知ることで、子どもの独創力と発想力を豊かにする。内容は、「見て、遊んで、作って、絵本を感じてみよう！」ということで、一冊の絵本には一つの世界がデザインされており、参加者にお気に入りの一冊を見つけてもらう企画とした。

- ・統一テーマ 「感じる絵本展」
- ・開催日時 2014年8月14日(木)～16日(土) 11時～17時
- ・場所 ATC 10F サンセットホール
- ・内容 絵本ギャラリー、デザイナーが選ぶ!子どもに読んで欲しい絵本10選、絵本迷路、絵本ノート作りワークショップ
- ・参加費 無料(ワークショップは有料)
- ・参加者 1,679名

(5) モデラーズエキスポ2014 に協力

(事業費 100千円)

ジオラマを中心とした、クリエイティブな模型作品をクオリティ高く展示。

全国から集結した作家 34 人による「作家展」(ギャラリー)のほか、各種イベントや物販それに子ども向けデザイン・ワークショップも開催した。

- ・ 期間 2014 年 11 月 1 日(土)～3 日(月・祝)
- ・ 会場 デザインギャラリー、ショーケース、多目的ルーム
- ・ 主催 モデラーズエキスポ実行委員会
- ・ 来場者数 5,500 名

2. デザインに対する意識改革と発信力強化事業

(1) OSAKA STYLING EXPO 2014 への参画 【大商との連携事業】

(事業費 16,190 千円)

当財団は平成 22 年度から、大阪商工会議所および大阪スタイリングエキスポ実行委員会(事務局:大阪商工会議所)が実施する「OSAKA STYLING EXPO」に参画している。

同事業は、大阪らしいライフスタイルの発信を通じ、大阪の賑わい向上とファッション・ライフスタイル関連産業の進行に貢献することを目的とし、プログラムは「FASHION部門」と「LIVING部門」で構成される。

関西で活躍するクリエイター等が創り出す商品の中から、消費者に支持される商品をコーディネートし、「OSAKA STYLING」として発信することにより、消費の刺激、消費者起点の商品開発、新進クリエイターの発掘・育成等に資する。

LIVING部門では、大阪らしいライフスタイル「OSAKA STYLING」をテーマに募集、選定・編集した商品の展示・販売会や各種催しを大阪市内の商業施設や展示ホール等で開催した。

当財団は、主催者である大阪スタイリングエキスポ実行委員会の構成団体であり、大阪商工会議所、大阪市、関西経済同友会などとともに本事業を推進した。

- ・ 名称 OSAKA STYLING EXPO 2014 LIVING 部門
- ・ 募集テーマ “Best Buy OSAKA!”
- ・ 開催日時 2014 年 11 月 5 日(水)～10 日(月) 10:00～20:00
- ・ 場所 高島屋大阪店 7F催会場(大阪府中央区難波 5-1-5)
- ・ 来場者数 約 1 万人
- ・ 参加費 無料
- ・ 参加企業 応募 61 社、出展 21 社

- ・ 名称 OSAKA STYLING EXPO 2014 FASHION 部門
- ・ 開催日時 2014年10月24日(金)14:00～20:00
25日(土) 11:00～19:00
- ・ 場所 グランフロント大阪 ナレッジキャピタルなど
- ・ 来場者数 4,758人
- ・ 内容
 - ① 2015春夏レディースの新作商品のファッションショウ
(20ブランド)
 - ② 学生ファッションデザインコンテスト 5校
 - ③ ブース出展
 - ④ 人気投票

(2) 展示会等による情報発信

① 「LIVING & DESIGN 2014」 への出展 (事業費 535 千円) 【大阪市との連携】

「住まいと暮らしのリノベーション」をテーマに2009年から開催されている西日本最大規模の住空間の国際見本市に出展して、企業や流通関係者、一般市民に、デザインを活かしたものづくりの意識啓発を進め、大阪のデザイン力を広くPRした。

- ・ サブテーマ 「INNOVATIVE RENOVATION 新たな可能性」
- ・ 実施時期 2014年10月15日(水)～17日(金)
- ・ 場所 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)
- ・ 参加者 6,793名

(3) イベントの実施・誘致の共催 【大阪市との連携】①～⑦

① デザインマルシェ (事業費 2,855 千円)

こだわりの品物を特別に集めた、どこか懐かしい未来の市場を設けた。

- ・ 主催者 デザイン振興プラザ、大阪デザインセンター、
デザインマルシェ実行委員会
- ・ 知恵マルシェ 11月29日(土)18:30～21:00 ATC10F トークリレー
清水 柁行氏、服部 滋樹氏 他5名 (来場者数)186人
- ・ 人マルシェ 11月29日(土)21:15～22:30 ATC10F
交流パーティー 2,000円 (来場者数)109人
- ・ 品物マルシェ 11月29日(土)30日(日)11:00～18:00 ATC2F

フリーマーケット 36 店舗 〈来場者数〉6,861 人

② **クリエイティブバトルロイヤル（事業費 260 千円）**

「～クリエイティブ～な発想で商流をつくる！経営こそデザイン！」というテーマで、マネジメントで経営の可能性を広げたクリエイター達の本気と本音の熱きトークバトルを実施した。

- ・ 開催日 2014 年 9 月 12 日（金）18:00～21:30
- ・ 会場 ATC I TM棟 10 階 特設会場
- ・ 講師 松岡 健太郎氏、サノ ワタル氏、金谷 勉氏
- ・ 参加者 84 名

③ **産学連携デザイナー育成プロジェクト2014（事業費 313 千円）**

ATC との連携により、デザイン専門学校生・大学生とものづくり中小企業の出会いの機会を提供して、学生には生産現場でのデザイン開発体験を、企業には若い人の斬新なアイデアの導入を促した。

企業 10 社と、学生 60 名を募集して、グループに分かれて、企画、提案、制作を経てデザイン提案を行ってもらった。

平成 26 年 3 月 1 日～ 参加企業募集。4 月 15 日～ 学生募集。6 月 7 日 マッチング会。6 月 学生企業訪問。7 月 12 日 プレゼン 1。8 月 23 日、24 日 プレゼン 2。9 月 20 日 最終プレゼン。

- ・ 参加者数 マッチング： 74 名
プレゼン 1： 68 名
プレゼン 2： 47 名
最終プレゼン： 70 名
- ・ 総参加者数 259 名

④ **アジアクリエイティブクロスフォーラム（事業費 1,500 千円）**

新たな Creative Working を促進する、アジアのクリエイターたちが一挙集結。

- ・ 統一テーマ 「アジアから始まる、これからの Creative Working」
- ・ 開催日時 2015 年 1 月 31 日（土）13 時～17 時 30 分
- ・ 場 所 ATC デザイン振興プラザ
- ・ 参加費 3,000 円
- ・ モデレーター 塚田有那氏
- ・ パネリスト 名和 晃平氏、太刀川 英輔氏 他5名
- ・ 参加者 156 名

⑤ クリエイティブビジネスフォーラム（事業費 145 千円）

クリエイターの、現場での活動状況や課題。

- ・ 統一テーマ 「クリエイターとモノづくり。と、」
- ・ 開催日時 2014 年 10 月 28 日(火) 19 時～23 時
- ・ 場 所 関テレ扇町スクエア
- ・ 参加費 無料
- ・ モデレーター 浅野 由裕氏
- ・ パネリスト 清水 証行氏、金谷 勉氏 他7名

⑥ イベント誘致活動（事業費 1,000 千円）

A T C が外部の有識者にデザイン・イベント、インキュベーション入居者の加入促進業務を委託するに際して、協力した。

(4) デザイン意識啓発

① SOCIAL DESIGN CONFERENCE 2015 への参画

(事業費 801 千円) 【大阪市との連携】

環境問題や地域創生など、社会にある様々な課題をデザインによって解決するという「ソーシャルデザイン」をテーマにその具体的な実践例の展示や講演、パネルディスカッションなどを行った。

今回のソーシャルデザインカンファレンスは、事例を通して、チャレンジ、イノベーション、インパクトの側面から考察し、ワークショップを開催した。

当センターは実行委員会に参加した。

- ・ 名 称 ソーシャルデザインカンファレンス 2015
- ・ 統一テーマ 「チャレンジ・イノベーション・インパクトから考察するソーシャルデザイン」
- ・ 開催日時 2015 年 3 月 21 日(祝・土)10:00～17:50
- ・ 場 所 ATC 大阪デザイン振興プラザ
- ・ 参加費 無料
- ・ モデレーター ムラタ チアキ氏 他
- ・ 講演者・パネリスト 田中 浩也氏、田平 由弘氏、小野寺 トモ氏
- ・ 参加者 140 名

② シンポジウム「マーケットに響くデザイン」の開催（事業費 435 千円）

企業が作ったモノをセレクトして買い付けるのが小売業のバイヤーであり、彼らは、消費者に対するセラーである。モノの売買市場、マーケットにおいて、バイヤーはその「目利き力」、「プレゼンテーション力」によって、市場の中心アクターである。

デザイナー、企画開発者が、モノを売りたいと思うときには、バイヤーに尋ねるのが一番近道であり、バイヤー視点でのシンポジウムを実施した。

・ 名称	シンポジウム「マーケットに響くデザイン」
・ 開催日時	2015年3月18日(水)14:00～16:00
・ 場所	大阪市立中央図書館
・ 講演者・パネラー	吉田 桜子 氏 (株)アクタス マーチャンダイジング部 柳沼 周子 氏 (株)エンファクトリー スタイルストア
・ コーディネーター	能口 仁宏 氏 (株)大彌リビング
・ 参加者	214名
・ 参加費	無料

実施事業会計【ODC部門】

1. ビジネスマッチングプロジェクト

(1) デザインビジネスプロモーションセンターの運営（事業費 8,244 千円）

中小企業のデザイン導入・活用に関するあらゆる相談や情報提供、さらには要望に応じたデザイン事務所の紹介や個別カウンセリング行うなど、中小企業とデザイナーとのビジネスマッチングに努めた。ホームページでの情報発信に加えて、「大阪勧業展」、「LIVING&DESIGN」、大阪産業創造館「容器展」への出展や、ODPでのマッチング事例展示展、デザイナー向けセミナーの企画など積極的な広報を行い、デザイナー紹介に関する相談案件が前年比約200件アップした。また、企業依頼内容に対するデザイナーとの的確なコーディネート業務に注力し、成約率56.8%とマッチングの精度を意識した取組みを実施した。(24年度成約率44.7%、25年度成約率63.2%)

① デザイン一般相談・利用

一般相談・利用件数 4,068 件 (前年度は 4,041)

(内訳)

デザイン一般 に関する事	デザイナー紹介 に関する事	プロデューサー派遣 に関する事	データベース に関する事	その他	合計
1,974 (2,298)	1,347 (1,143)	266 (281)	315 (276)	166 (43)	4,068 (4,041)

② デザイナー・デザイン事務所の紹介

依頼件数 142 社 (前年度は 124) 紹介件数 136 社 (前年度は 129)

(内訳)

プロダクトデザイン分野		スペースデザイン分野		コミュニケーションデザイン分野		合計
成約(開発中含む)	30	成約(開発中含む)	2	成約(開発中含む)	60	92
交渉中	5	交渉中	0	交渉中	14	19
不成約	16	不成約	5	不成約	30	51
合計 (前年度)	51 (53)	合計	7 (6)	合計	103 (74)	162 (159)

※成約件数には、1 案件(1 企業)と複数デザイン事務所とのマッチングもカウント

③ DPC 専任コーディネーターならびに専門プロデューサーによる個別面談カウンセリング

DPC 専任コーディネーター(ODC 職員)対応 83 件/専門プロデューサー対応 35 件

合計カウンセリング件数 118 件

(内訳)

プロダクトデザイン分野	スペースデザイン分野	コミュニケーションデザイン分野
28/11 (15)	6/0 (0)	49/24 (26)

※カッコ内の数字は前年度の専門プロデューサーによる対応案件数

④ 外部展示会等への出展

- ・ 「容器展」大阪産業創造館
平成 26 年 4 月 23 日開催 来場者数 908 人 面談件数 14 件
- ・ 「LIVING&DESIGN」グランキューブ大阪
平成 26 年 10 月 15 日・16 日・17 日 (3 日間) 開催 来場者数 6,793 人 面談件数 26 件
- ・ 「大阪勧業展」マイドームおおさか
平成 26 年 10 月 22 日・23 日 (2 日間) 開催 来場者数 7,612 人 面談件数 18 件
- ・ 「プロダクト・商品パッケージデザイン個別相談」大阪産業創造館
平成 26 年 5 月 15 日 相談企業 2 社

⑤ 広報活動その他

- ・ デザインイベント・セミナーでのチラシ配布や Web サイトでのマッチング事例(case study 掲載事例 累計 122 件)等による情報発信。
- ・ 大阪デザイン振興プラザにおけるマッチング事例の展示
平成 26 年 6 月 25 日～9 月 9 日、デザインギャラリー&ショーケース 展示点数 40 点
- ・ 掲載「TOYRO BUSINESS 7 月号」(株)自然総研 池田泉州銀行グループ)
- ・ デザイナーのためのサポートセミナー(大阪デザイン振興プラザ主催)1～3 月企画協力
 - 「デザイナーのビジネスマッチングに役立つ 35 の視点」講師 参加者 25 名
 - 「企業がデザイナーに期待したこと、デザイナーが企業に応えられたこと」参加者 31 名
 - 「切り拓くデザイナーのケーススタディ 一歩前へ、一歩先へ行くために」参加者 61 名

⑥ 主な視察状況

4 月 16 日	神戸商工会議所	1 名
4 月 16 日	福井県産業労働部産業政策課	1 名
4 月 25 日	株式会社自然総研	2 名
6 月 6 日	神戸市産業振興局経済部	1 名
7 月 8 日	大阪市経済戦略局産業振興部	5 名
7 月 15 日	大阪市経済戦略局産業振興部	5 名
9 月 24 日	株式会社野村総合研究所	1 名
12 月 4 日	和歌山県企業立地課	2 名
2 月 25 日	松山市地域経済課	1 名
3 月 12 日	大阪産業創造館	2 名
3 月 23 日	浜松地域イノベーション推進機構	1 名

⑦ その他

新しいデザイン情報の事例紹介やデザイナー同士の交流を目的に、大阪産業創造館や現地を会場に下記のサロンや見学会を実施した。

5 月 8 日	地場産業とのコラボレーションとブランディング事例	12 名
5 月 22 日	Designers Communication In ODC(デザ恋)	10 名
12 月 9 日	大塚家具「KEN OKUYAMA GALLERY」見学会	9 名

(2) シーズを活かした新商品デザインプロジェクト「モノづくりのための人間工学」(新規) (事業費 798 千円 参加費収入 880 千円)

低価格、大量生産品の時代は終わり、消費者のニーズを追いかけるだけではすぐに陳腐化する。時代を先取りした新商品の開発がものづくり企業の死命を決する時代になった。

そのためには、研究シーズ、素材シーズを活かしたコンセプトづくりが大きな選択肢である。

新商品の開発に際しては様々なアプローチがあるが、健康志向、高齢社会、安全・安心などのキーワードからは、人間の身体に優しい、人間工学的に、医療的に発想することが有効である。

そこで、この分野では4億本発売という大きな成功をおさめた「ドクターグリップ」(パイロットのボールペン)のアイデアを開発された、広島大学医学部臨床教授の宇土 博教授をお迎えして、幾つかの商品開発具体事例の紹介と、産業医としての経験を人間工学の見地から「ワークデザイン」の概念として提唱いただき、来場者の新商品開発のアイデアに対するクリニックも行った。

- ・ 開催日時 2014年6月19日(木)～2015年3月19日(木) 全10日間
15:30～19:30
- ・ 場所 ATC 6F イメディオ
- ・ 参加者 延べ91名 (平均9名)
- ・ 参加費 30,000円

2. 研修教育事業

(1) 市場ニーズ把握型新事業創造・普及啓発事業【大阪府からの受託事業】

デザイン・シンキング実践講座 (新規) (事業費3,242千円)

現在のモノ余り成熟社会では、「市場動向に合致」していて、かつ、「良い」商品でないと売れない。

従来は、メーカーサイドだけの「思い込み」で製作しても売れる場合もあったが、「ユーザーニーズに合わせる」ことは絶対条件になっている。

しかし、現時点の「市場追随型」の商品では売り場に並んだ時には、時代遅れになっている危険性がある。

消費者のトレンドを見て、時代を先取りするもの、潜在的な市場ニーズを引き出すものが求められる。

さらに、「良い商品」であるためには、機能、質が従来のものより上等であることが望ましいが、そのためには、メーカーサイドの「企業の強み」を引き出す一方で、多角的な観点から「素材シーズ」、「技術シーズ」、「研究知見シーズ」、「文化資本シーズ」など異次元アイデアの種子と統合すれば、新たな商品コンセプトを生み出す可能性が高まる。

そして、「商品の良さ」を消費者に知らせるためには、商品コンセプトに合致した販売戦略を策定する必要がある。

以上の目的を達成するために、今回、セミナーとワークショップをセットにした事業を実施した。

まず、ものづくり企業ならびにデザイナーを対象とした、セミナーを1回開催して、商品開発に有用であるデザイン・シンキングの手法を理解してもらい、新商品開発の実例と消費者ニーズの捉え方を紹介する。

そのあと、ワークショップを3回開催して、具体的な商品アイデアを持ち寄り、参加者、講師で、デザイン・シンキングを実践し、コンセプトをブラッシュアップする。

特に、セミナー、ワークショップを通じて、小売業の価値観を反映させ、適切な販売戦略を立てるために、指導できる実績ある流通関係者に参加してもらった。

第1クール

セミナー

- ・ 日時 2014年10月22日(水)13:00~16:00
- ・ 場所 あべのハルカス25階
- ・ 講師 勝尾 岳彦氏 日経BP社日経デザイン編集委員
飯田 吉秋氏 (有)アイ・シー・アイデザイン研究所代表取締役
石本 和治氏 1031ビジネスコンサルティング代表
- ・ 参加者 133名

ワークショップ

- ・ 日時 2014年11月19日(水)、12月3日(水)、12月17日(水)
- ・ 場所 大阪デザインセンター SEMBA
- ・ 講師 飯田 吉秋氏 (有)アイ・シー・アイデザイン研究所 代表取締役
石本 和治氏 1031ビジネスコンサルティング 代表
杉田 祥市郎氏 (有)トライマート 代表取締役
- ・ 参加者 17名

第2クール

セミナー

- ・ 日時 2015年1月14日(水)13:30~16:30
- ・ 場所 グランフロント大阪 8F
- ・ 講師 勝尾 岳彦氏 日経BP社日経デザイン 編集委員
竹綱 章浩氏 きづきデザインラボ 代表
石本 和治氏 1031ビジネスコンサルティング 代表
- ・ 参加者 135名

ワークショップ

- ・ 日時 2015年2月10日(火)、2月25日(水)、3月11日(水)

- ・ 場所 ATC 10F
- ・ 講師 竹綱 章浩氏 きづきデザインラボ 代表
石本 和治氏 1031 ビジネスコンサルティング代表
- ・ 参加者 15名

成果発表会

- ・ 日時 2015年3月25日(水)13:00～17:00
- ・ 場所 ATC 10F
- ・ 内容 第1クール、第2クールにおけるワークショップでの全6班の検討結果をパワーポイント形式で発表し、主催者(大阪府)、講師からの講評を行った。

3. 企画事業

(1) 製品安全対策カンファレンス (新規) (事業費 1,443 千円)

「良い技術」と並行して「安心・安全」への関心の高まりは重要な経営課題の一つになった。

国の動きを受けて、販売流通業界もすでに大手・中小の規模を問わず、高度なレベルの製品安全対策を打ち出している。

多くの流通・販売店側が製品安全のガイドラインに沿わざるをえない状況が間もなく来るが、ここで重要な問題は、中小製造業がたとえ部品供給であってもガイドラインに沿った基準を求められることである。製造業から販売まで企業規模の大小を問わず、正しい対策・対応が求められる。

ところが、ガイドラインを理解し、対応できる専門人材が大変不足しており育成には時間と費用がかかる。製品安全に係る各種法律・規則・規格を把握し、消費者保護政策の現状を踏まえ、事業者としての具体的な対策を、ご説明し、合わせて製品安全対策優良企業表彰を受賞した5社さまにも講師としてご参加いただいて実務内容を直接具体的にお聞きできる研修会を開催するはこびとなった。

他に先んじて対策を立てることにより攻めの企業戦略として取り入れて、ブランド好イメージ形成や利益貢献にも活かされるよう、デザインの視点を織り交ぜながら解説した。

- ・ テーマ **【企業価値向上、経営貢献のための製品安全対策カンファレンス】**
- ・ 日時 2014年10月2日(木)、7日(火)、14日(火)、21日(火)～
28日(火)15:00～17:00 全5回

- ・ 会場 日刊工業新聞社大阪支社10階セミナールーム
- ・ 参加対象 設計、開発、品質保証担当者など、これからの製品安全構築に携わる方。
(製造業、流通業、デザイン業など)
- ・ 講師 (株)相田合同工場、(株)LIXIL、YKK AP(株)、(株)ダイワ、
びーんず(株)、兵庫県電機商業組合、(株)コシダアート、
(株)タバタなど
経済産業省が主催する製品安全対策優良企業表彰受賞企業7社。
- ・ 受講料 全5回 30,000 円 (6,000 円/回)
(賛助企業:4,000 円/賛助デザイナー2,000 円)
- ・ 主催 一般財団法人大阪デザインセンター
- ・ 共催 日刊工業新聞社
- ・ 参加者 延 54 名 (平均 10 名)

4. 国際交流事業

(1) 海外市場調査、海外販路開拓支援 (新規)

「ニューヨーク・ナウ視察ツアー」 (事業費 2,388 千円)

中小企業、デザイナーともに、海外進出への関心は高く、市場調査やモデル出展等を検討している。その場合、世界の流行の源流に直接アタックすることが有効であり、ヨーロッパやアメリカがターゲットになる。

中でも、ニューヨーク・ナウは、実際にモノを売るための競争が厳しい半面、そこで認められれば、大きなビジネスチャンスが広がってくる。

欧米では、日本製品は「信頼の品質」、「魅力的な生活文化」が好感されており、大いに可能性はあるが、クールジャパンの日本商品そのものを持ち込んでも成果が少なく、現地の生活文化に合ったデザイン商品を日本のブランド戦略の下に提案することが不可欠です。

生活雑貨全般に渡り今後のトレンドを予測でき、全米のバイヤーは勿論、欧州・アジアからも商談に訪れる、「NY NOW」は重要である。

今回の現地視察ツアーでは見本市を中心にした商品デザインや今後の傾向などを探ると共に、最先端のトレンド、マーケット動向、米国の流通事情などを専門家から助言をいただいた。また NY のミッドタウン・ダウントウン(SOHO、CHELSEA 地区)などの主要店舗をリサーチし、実際の売り場も体験した。

- ・ 日程 日本発 2015 年 1 月 29 日 (木) 08:00 伊丹発
帰国 2 月 4 日 (水) 19:55 伊丹着 現地 5 泊 7 日
- ・ ホテル NY 中心部四ツ星クラス N.Y. 「Sheraton NY Times Square」

- ・ 参加費 32 万円(消費税込、旅行保険除く)
- ・ 参加人員 8名
- ・ ツアーコーディネーター・指導 松浦 隆展氏 SPACE M PROJECTS, LTD

5. 交流事業

(1) SEMBA デザインサロン (新規) (事業費 2,225 千円 再掲)

分野を超えてデザインに関わる人達の交流を広げる場として、船場センタービル 4 号館 2 階の所有スペースを「SEMBA」としてリニューアルオープン。クリエイティブで落ち着いた便利な空間として、デザイン団体や一般への貸会議室といった用途に加えて、毎週金曜日の夕刻には「SEMBA サロン」として、プレゼンターを招き、自由参加の交流会を企画実施した。

SEMBA サロン

期 日	内 容	参加者数
10 月 7 日	おひろめ会 (co-design デザインビジネス塾修了生)	20 名
10 月 10 日	おひろめ会 (大阪デザイン団体連合役員)	23 名
10 月 24 日	JIDA salon 19th「路線図のデザイン」(主催:JIDA 関西ブロック)	26 名
10 月 31 日	WEB マーケティングの現状	18 名
11 月 7 日	暮らしの中に新しい発見のきっかけを創る	15 名
11 月 14 日	「なんで、バスなん？」(主催:大阪デザイン団体連合)	14 名
11 月 21 日	スポーツシューズデザインのよもやま話	22 名
11 月 28 日	「名刺・封筒・紙製品は今・・・ニーズに合ったコミュニケーションサービス」	14 名
12 月 5 日	模型師たちの祭典 モデラーズエキスポの運営	12 名
12 月 12 日	それぞれが注目する世界トレンド(デザインカンファレンス&tutumu 実行委員会)	28 名
12 月 19 日	100 の言葉より一枚のスケッチ(主催:大阪デザイン団体連合)	16 名
1 月 9 日	地域コミュニティにおける「場」のデザイン	21 名
1 月 16 日	紙を超えた紙	10 名
1 月 23 日	広告写真のデジタル化って結局のところどうよ？	19 名
1 月 30 日	著書「ロゴロジック」番外編～裏話とその後	30 名
2 月 6 日	苦(くる)たのしい、辛(つら)たのしい、商品開発のヒント	15 名
2 月 13 日	2015 最新レポート! NY NOW&東京ギフトショー	12 名
2 月 20 日	お菓子の神様・不老長寿の神木「橘」をブランディング	14 名
2 月 27 日	欧州 2 大インテリア見本市の最新情報 (主催:大阪デザイン団体連合)	23 名

3月6日	中国の展示会に出展したデザイナーが見て感じたこと～その後	17名
3月13日	思い描いたものを商品化する破天荒デザイナーのあの手この手	16名
3月20日	デザインのチカラで商店街を活性化する (主催:大阪デザイン団体連合)	17名
3月27日	伝統の金属「錫」とデザイン	16名

計 23 回実施 延べ参加者数 418 名

(2) 大阪デザインサロンに協力 (大阪デザイン団体連合 主管)

デザイン関係者だけでなく、ものづくり企業、官公庁等幅広い方々が気楽に集まって交流を図り、情報発信できる場をもつため、23年度に「ODC 交流サロン」を実施したが、24年度には、大阪デザイン団体連合が、在阪のデザイナー等の交流の場として、「大阪デザインサロン」の開催を呼びかけたので、以来、当財団もこれに全面的に協力しており、SEMBAサロンでの共催事業も行っている。

(3) ナレッジサロンに協力 (事業費 672 千円 収入 780 千円)

大阪で「新しい価値」を創造する、「うめきた」の「グランフロント大阪」プロジェクトの中核となる「Knowledge Capital」ナレッジキャピタルが、平成 25 年 4 月 26 日にグランドオープンしている。

世界的な大学、研究者、企業、クリエイターなどが集い、感性と技術が融合して、「知」を創造する空間が誕生したが、そこでは、デザイナーの SOLUTION のノウハウが大いに活かされるべきだと考え、当財団が呼びかけ人となって、格安料金の「アカデミア会員」を募った。

- ・ 当財団取りまとめのアカデミア会員数 32名 (25年度は30名)

6. 情報提供事業 (直接事業費 77 千円、他は間接事業費に)

(1) ホームページの充実

当センター事業の開催告知など新しい情報をその都度発信するとともに、大阪を主とする多様なデザインに関する取組みをサイト内の「KANSAI DESIGN INFO.」や公式 facebook で情報提供した。また、コンテンツの更新頻度の向上に努めるとともに、トップページのメインビジュアルをスライドショーにし、セミナー・イベントの会場風景を盛り込むなど、多彩かつ親近感のあるものとした。

(2) デザイン事務所データベースの整備と運用管理

在阪を中心とするデザイン事務所データについて、業務内容・得意分野など関連情報を収集の上、ホームページにおいてアップすると共に、デザイン相談やデザイナー紹介などにおける利用者のニーズに応える案件にも活用した。また、登録デザイン事務所に対して、当センターの関わるデザインイベント・セミナー等の情報を提供した。

○登録デザイン事務所数

- ・ ビジュアルデザイン分野 293 社 (前年度は 275)
- ・ プロダクトデザイン分野 108 社 (前年度は 104)
- ・ スペースデザイン分野 57 社 (前年度は 52)

7. 各種委員会の開催

(1) 事業評価委員会の開催

当財団では、(公財)JKAから補助金を得て3件の事業を実施したが、(公財)JKAでは、「補助事業実施に関する事務手続要領」において、補助事業の透明性、効率性を確保するため、補助事業者の「事前評価」「事後評価」を求めている。事後評価に当たっては、補助事業者の内部評価だけではなく、評価の客観性を担保するため、外部有識者で構成する評価委員会の設置を平成 22 年度から求められた。

そのため、26 年度も(公財)JKA の補助事業等を評価する(一財)大阪デザインセンター事業評価委員会を設置し、3 名の評価委員(羽原清明大阪デザイン団体連合監事、山内勉福井工業大学教授、鈴木美和子大阪市立大学都市研究プラザ客員研究員)を委嘱し、平成 27 年 3 月 23 日(月)午後3時から(一財)大阪デザインセンター会議室で委員会を開催した。

委員会では、委員長に羽原清明氏を選出した後、評価の検討に入った。

①デザイン就職支援、②デザインビジネス塾、③デザインマネジメント研究会 について事業概要や参加者アンケート、事後評価書等を説明した。

委員から、「一般人の意識改革を目指すのであれば、直接的な効果が出るはずはなく、目標設定がずれている。」といった意見が出され、これらを反映して、(公財)JKA に「事後評価」を提出した。

(2) (財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会

国デ協の継承資産については、(財)国際デザイン交流協会継承資産運営委員会(構成:大阪府、大阪市、大阪商工会議所、近畿経済産業局の役職員の中からそれぞれ 1 名を充て職として、理事会の同意を得て理事長が委嘱する。)で、引継がれた財産の管理や同財産をもって行う事業に関し、理事会に提出する収支予算、事業計画などについて審議を行うこととなっている。

運営委員会を平成 27 年 2 月 24 日(火)に開催し、理事会に提出する平成 27 年度の事業計画と予算案などを集約した。

8. その他事業

(1) 賛助会員の加入促進

センターの財政基盤の強化を図るため、市内デザイン事務所を中心に積極的な加入勧奨に努めたが、経済情勢の悪化により会員数は減少傾向を続けている。

賛助会員のメリットを明確化するように努め、HP 上で会員名簿を公開し、情報発信便宜、セミナー参加料の減額、セミナー参加者への入会勧誘などを講じた結果、一定の会員数増も見られた。

○ 賛助会員数 120社 (前年度は 129 社)

(2) 商工経済団体との連携強化

大阪商工会議所、大阪府中小企業団体中央会、大阪府商工会連合会、大阪市工業会連合会及び大阪卸商連盟など商工経済団体との連携の下、諸事業の推進と PR に努めた。

(3) デザイン関連事業の後援状況

ツムテンカク、LIVING & DESIGN など、デザイン関連諸事業に対して、後援 10 件(前年度は 10 件)を行った。

その他事業会計

1. 「大阪デザイン振興プラザ」受託事業 (事業費 14,114 千円)

デザイン工房等の運営 (ATC<アジア太平洋トレードセンター株式会社>からの受託事業)

様々な分野で活躍する新進デザイナー、クリエイターのインキュベート(育成)を目的に設置されたデザイン工房をはじめ、デザインギャラリー、ショーケース、デザインライブラリー、多目的ルーム、ワークルーム、交流サロン、会議室などの運営・管理や工房入所者の作品展を行い、デザイナーの育成と情報発信などに努めた。平成 26 年限りで委託を廃止した。

- ① インキュベーションオフィス入所事務所数 事務所 6 (前年度は8)
- ② デザイナーオフィス入所事務所数 事務所 24 (前年度は27)
- ③ イベント企画、ライブラリー等の運営
- ④ 主なイベント開催状況
 - ・ 展示会 28 回 (前年度は16回)
 - ・ 講演会 27 回 (前年度は16回)

2. 船場賃貸事業 (事業費 5,274 千円 収入 4,572 千円)

船場センタービルに保有する権利床の一部を民間事務所、民間デザイン事務所に賃貸して、収益とした。

また、10月に、貸し会議室をリニューアルして、「SEMBA」として、時間貸しすると共に、枚週金曜日の夜には交流の場、「SEMBAサロン」を開設している。

3. デザイン団体支援事業 (収入 2,381 千円)

大阪デザイン団体連合をはじめ、(公社)日本インダストリアルデザイナー協会関西ブロック、(公社)日本インテリアデザイナー協会西日本エリア、(一社)日本商環境デザイン協会関西支部、あぷーん (Ageless Planning Network) からの委託を受け、各団体の事務局業務を推進し、各団体の支援に努めた。